

津市長

前葉泰幸

三重県民生委員児童委員協議会会長

速水正美

さん

## 地域福祉のつなぎ役

平成29年7月5日、三重県民生委員児童委員協議会会長の速水正美さんをお迎えし、制度創設100周年を迎えた民生委員児童委員の地域に根差したさまざまな活動について前葉泰幸市長がお話を伺いました。

撮影/津センターパレス

**市長** 今年は、民生委員という制度ができて100周年の年にあたります。まずは、速水さんご自身が民生委員になられた経緯をお聞かせ願えますか。

**速水** 平成18年5月に前任の方が体調を崩され、自治会長さんから民生委員をしてくれないかというお話をいただいたのがきっかけです。その前年に亡くなった父が自治会長をしていたり、母も保護司をしていたりしましたので、私もそろそろ地域の方のために何かしなければという思いでお受けしました。月に1回程度会議に出たらいいというような話でしたが、いざなってみますとなかなか忙しい仕事でした。

**市長** 最初の説明よりも中身はより大変だったというわけですね。民生委員さん児童委員さんは、皆さまそのように世の中の役に立つことをという思いでお引き受けくださっています。従って、そのご活動の中で、地域をもっと良く

したいという思いを常にお持ちです。そのことに私も気付かしまして、市長になって2、3年たったころから、民生委員児童委員の各地区の集まりを訪問するなど、市政懇談会を約2年かけて開催しました。この時に、高齢福祉や障がい福祉、児童福祉についていろいろなご意見をいただいたのですが、速水さんご自身が活動をしていく中で心に残っていることをお話しいただけますか。

**速水** 民生委員になって2年目くらいのことでしたが、私よりも2つほど年上の方が2日間くらい自転車動かした様子がないということで訪問したところ、部屋で倒れて亡くなられていたことがありました。先日も95歳のお年寄りの家を訪問した民生委員が、玄関が施錠されていないにもかかわらず声を掛けても出て来ないということで警察と一緒に私が訪問したところ、脱水症状でベッドから動けなくなっておられ救急